

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果の概要

1 教科に関する調査の状況について

国語

課題のある問題の例：小学校第6学年

■令和7年4月17日（木）

小・中・義務教育学校全校実施

■実施教科 小学校等 … 国語 算数 理科

中学校等 … 国語 数学 理科

3
三(1)

【話し合いの様子】のAに当てはまる内容として最も適切なものを、次の1から4までのの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

私は、この資料（「資料4」）を見つけたよ。これを見ると、世代によって、「雨模様」の意味のとらえ方にちがいがいることが分かるでしょ。

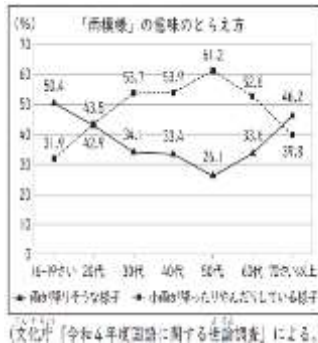
本当だ。三十代から六十代は本来の意味とはちがう「小雨が降ったりやんだりしている様子」ととらえている人の割合が高いね。

こんなふうに、人によって言葉の意味のとらえ方がちがうと、伝え合うときに困ると思うよ。だから、「資料1」に「A」と書かれているとおりに思うよ。

田中さん

木村さん

田中さん



- 1 この本を読むとお気持ちになると思っています。
- 2 「本来の意味」「本来とは違う使い方」と言った言い方にとどめています。
- 3 コミュニケーションの食い違いを放置しておくわけにもいきません。
- 4 「言葉は生きている」とも言われます。（「資料1」より抜粋）

課題

・目的に応じて、文章と図表等を結び付けるなどして必要な情報を見付けることに課題がある。

改善のポイント

- ・必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりして、文章のどの部分に結び付くのか明らかにする。
- ・自分にとって何が必要な情報か、読む目的を明確にする。
- ・資料中の語句や情報を○・□で囲む、線でつなぐなど、情報の関係を視覚的に明らかにして読めるようにする。

課題のある問題の例：中学校第3学年

3
四

【あらすじ】で囲まれた部分には、兄弟が目的を達成できなかった場面のあとに続く話が書かれています。あとに続く話は、「一榎木の実」にはありますが、「二釣りの話」にはありません。このような展開になっていることは、「二人の兄弟」という物語においてどのような効果があると考えますか。あなたの考えとその理由を具体的に書きなさい。理由を書く際には、物語の内容を取り上げて書きなさい。

【あらすじ】

一 榎木の実
二人の兄弟は、榎木の実が赤く熟すのを心待ちにしていましたが、気の短い弟は熟す前の青い実を拾ってしまい、食べることができず、気長な兄は拾いに行くのが遅すぎて、他の子供たちに全て拾われてしまいました。

二 釣りの話
その話を聞いて、お爺さんは、「一人はあんまり早過ぎたし、一人はあんまり遅過ぎました。」と言いい、ちよんどの時期を教えてくれました。そして、二人の兄弟はたくさんのお爺木の実を拾うことができました。

二人の兄弟が、お爺さんの造ってくれた釣竿で魚を釣ろうとしました。兄はゆっくり構えすぎたので、餌を魚に食べられてしまい、弟は釣れるまで待ちきれず、水をかき回したので、魚が驚いて逃げてしまいました。その話を聞いて、お爺さんが言いました。「一人はあんまり気が長過ぎたし、一人はあんまり気が短過ぎました。」

課題

・文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることに課題がある。

改善のポイント

【正答例】
読者の意表を突く効果がある。なぜなら、「一榎木の実」には、失敗した兄弟が、お爺さんのおかげで成功する場面が書かれているため、「二釣りの話」も同じような展開で読み進める読者が多いと思うからだ。

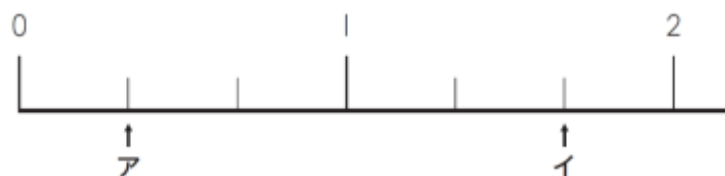
・なぜ、そのような構成になっているのか、それがどのような効果につながるのか、自分なりの意味付けをする。

・自分の考えを支える根拠となる段落や部分を挙げる。

・後の展開を予測しながら作品を読み、文章の構成や展開について考える。（そこまでの内容を基に、その後の展開を考えることで展開を意識した読み方を促す。）

課題のある問題の例：小学校第6学年

数直線のア、イの目もりが表す数を分数で書く。



主な誤答 ア・・・ $\frac{1}{6}$ イ・・・ $\frac{5}{6}$

課題

- ・数直線の0から2までが6等分されているため、分母を6としたのではないかと考えられる。分数で表す際、1に着目して1を何等分にしたものなのかを考えることの理解に課題がある。
- ・イの分数について、単位分数 $\frac{1}{3}$ のいくつ分なのかという見方に課題がある。

改善のポイント

- ・1の目盛りに着目して、分数を表す指導を行う。
- ・「1を○等分したものの□個分」とともに「 $\frac{1}{○}$ の□個分」という単位分数を基準とした見方の指導を行う。
- ・同一の数直線の上下に分数と小数を表すこと等を通して、数の量感がつかめるよう配慮する。

課題のある問題の例：中学校第3学年

連続する3つの3の倍数の和が、9の倍数になることの説明を完成する。

nを整数とすると、連続する3つの3の倍数は、 $3n$ 、 $3n+3$ 、 $3n+6$ と表される。
それらの和は、

$$3n + (3n+3) + (3n+6)$$

$$=$$

課題

- ・ $9n+9=3(3n+3)$ のように変形してしまうなど、9の倍数であることを説明するために、 $9 \times (\text{整数})$ の形に変えるといった考え方に課題がある。
- ・「nを整数とすると、 $n+1$ も整数になること」や「 $○ \times (\text{整数})$ は○の倍数になる」といった知識の習得や活用に課題がある。

改善のポイント

- ・見通しの場面において、いつでも9の倍数になることを説明するためには、文字を使う必要があることや9の倍数は $9 \times (\text{整数})$ の形で表されるといったことの確認を行う。
- ・普段の授業の中で定義や定理、公式といった根拠を問う発問を意図的に行う。

課題のある問題の例：小学校第6学年

4 (3) 図の (カ) から (ク) の中には「学習したこと」や「学習したことをもとに考えたこと」が入ります。(カ) から (ク) の中にあてはまるものを、右の 1 から 4 の中からそれぞれ 1 つずつ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 海水は、温まると水と同じように体積が増える
- 2 海の氷は、平均気温が高くなるとできにくくなる
- 3 水は、高い場所から低い場所へと流れる
- 4 水は、氷になるとき体積が増える

課題

・カは、オホーツク海の氷の面積が減少した理由を予想し、表現することに課題がある。

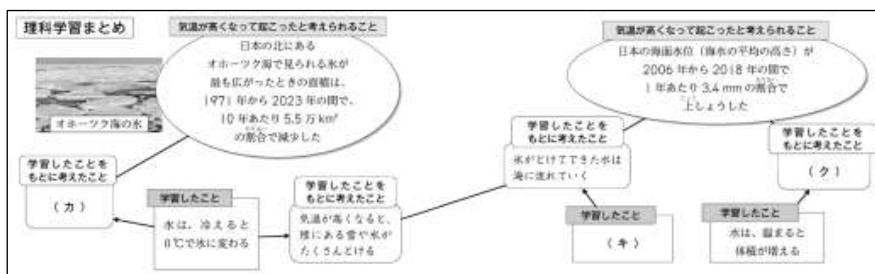
・キは、氷がとけてできた水が海に流れていくことの根拠に

ついて、理科で学習した知識を基に概念的に理解することに課題がある。

・クは、海水の温度が上昇するのに伴い海面水位が上昇することの理由を予想し、表現することに課題がある。

改善のポイント

- ・「水は、冷えると 0°C で氷に変わる」「水は、高い場所から低い場所へ流れる」「水は、温まると体積が増える」等の基礎的な知識・技能の定着のために、1人1台端末を活用し動画を視聴したり、問題に取り組んだりして個別最適な学びの時間を確保する。
- ・授業の導入場面では、意図的な遊びや活動、教師の事象提示等を通して、児童自身が解決したい問題を見いだすことや、学習を通して得た知識を活用して、問題解決する場面を設定する。
- ・児童が明確な目標を設定し、設定した目的を達成しているかを振り返り、修正するといった活動の充実を図ることで、学んだことの意義や有用性を実感できるようにする。



課題のある問題の例：中学校第3学年

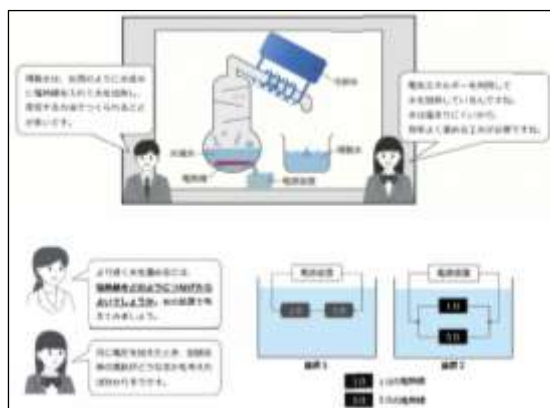
1 (1) 回路全体の抵抗が大きいのは装置1、装置2のどちらか、1つ選びなさい。また、下線部について、同じ電圧を加えて、より速く水を温めることができるのは、装置1、装置2のどちらか、1つ選びなさい。

課題

・直列回路と並列回路における回路全体の抵抗と熱量に関する知識を身に付けることに課題がある。

改善のポイント

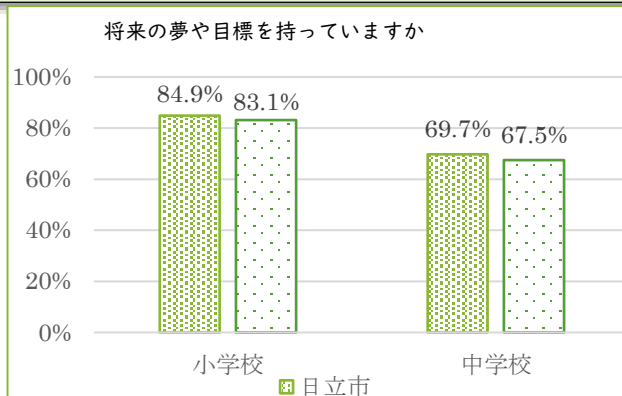
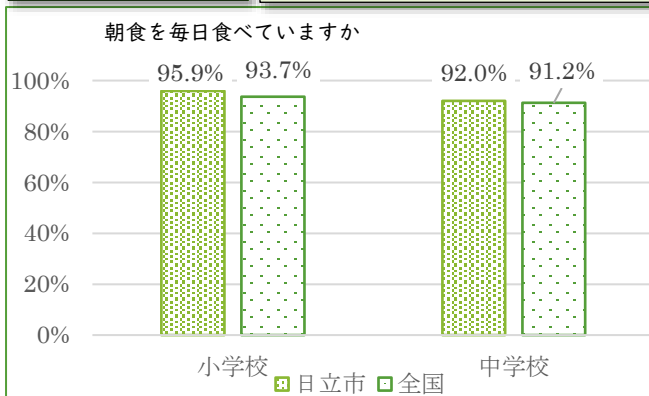
- ・「直列回路と並列回路の違い」「オームの法則」「回路全体と一部の抵抗の区別」「熱量＝電力×時間」等の基礎的な知識・技能の定着のために、1人1台端末を活用し動画を視聴したり、問題に取り組んだりして個別最適な学びの時間を確保する。
- ・これまで学習した知識を活用して、発生する熱量と直列回路・並列回路の合成抵抗とを関連付けて知識の概念的な理解を深める学習場面を設定する。
- ・身近な自然の事物・現象から見いだした問題を解決するために自らの課題を設定し、多面的、総合的に探究することで、学んだことの意義や有用性を実感できるようにする。



2 質問調査の状況について

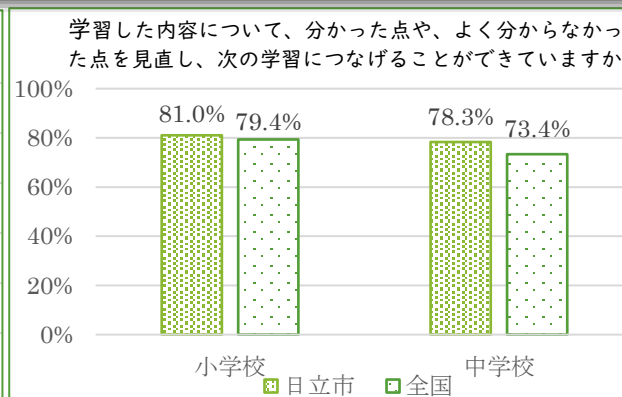
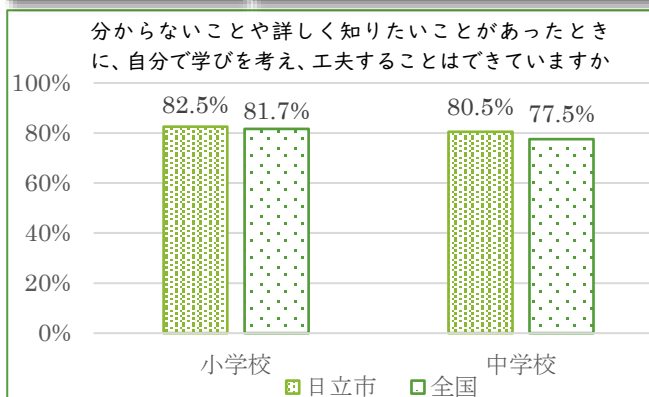
生活習慣 将来への意識

朝食を毎日食べている児童生徒の割合及び、将来の夢を持っている児童生徒の割合は、全国の割合より高い。



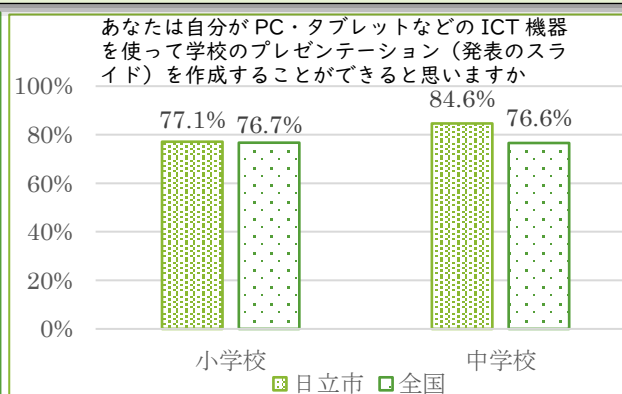
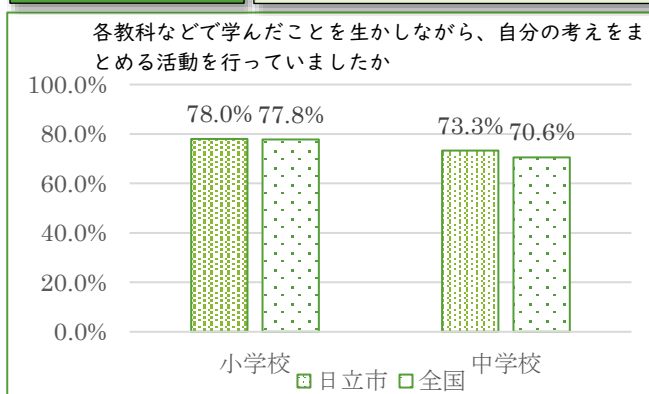
学習習慣

分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学びを考え、工夫できる児童生徒の割合及び、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる児童生徒の割合は、全国の割合より高い。



授業

各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめている児童生徒の割合及び、ICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができる児童生徒の割合は、全国の割合よりも高い。



1 質問と正答率との関係

「毎日朝食を食べている」「学習した内容について、よく分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている」「各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめている」「PC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができる」児童生徒は、教科の平均正答率が全国の割合よりも高い傾向が見られる。

2 授業改善に向けて

児童生徒の興味関心に合わせて、教材や学習方法を選択できる環境を整え、「好き」を育み「得意」を伸ばす授業実践や、児童生徒が当事者意識をもって、自分の意見を表現できる探究的な要素をもつ学習活動の充実を図る。